



食べ物はどうしてあるの

人間が食べるから食べ物になる

あなたが食べ物といっているものは、最初から食べ物として、そこにあったものではありません。人間が生きていくのに必要なものとして食べるために、食べ物になるわけです。

たとえば、広い海を泳ぎ回るマグロやサケは、もともと、人間の食料になるために生きていたわけではありません。たまたま、地球に生きていたものを人間が食べているから、食べ物という言い方をされているわけです。これは、魚にかぎらず、ウシやブタなどの動物や野菜にもあてはまることです。

人間が食べるために改良される食べ物

食べ物のなかには、人間が食べるために改良されたり、育てられているものもあります。牛肉になるウシは、すべて人間が、そのためだけに飼育しているウシです。ダイコンやタマネギなどの野菜も、人間が食べるためだけにさいばいされています。

つまり、食べ物は、すべて最初は、地球にもともとあったものなのです。それを後から、人間が自分たちにつごうのいいように改良したりしている、というわけなのです。

ハンバーグやアイスクリームのようなものは、もともとはなかったものですが、これも、いろいろな材料を組み合わせることによって、人間が発明したものなのです。

(監修・青木 国夫)

